

那 覇 市 教 育 委 員 会 会 議 録

平成27年度第22回（定例会）

署名人 添石幸伸

委員長 神村洋子

開催日時 平成28年3月2日（水）

開会 午後2時00分

閉会 午後4時20分

開催場所 那覇市役所11階 1101A・B会議室

出席委員 神村洋子委員長、添石幸伸委員、饒波正博委員、本仲範男委員、渡慶次克彦教育長

議 事 日 程

（1～7は非公開）

- 1 報告1 教育長が臨時代理したことについて【学校教育課】
- 2 報告2 教育長が臨時代理したことについて【学校教育課】
- 3 報告3 教育長が専決したことについて【学校教育課】
- 4 報告4 職員人事(採用)に関する教育長の専決について【総務課】
- 5 議案第42号 職員人事(指導主事管理職退職)について【総務課】
- 6 報告5 職員人事(指導主事採用)に関する教育長の専決について【総務課】
- 7 議案第43号 職員人事(管理職定期異動)について【総務課】
- 8 議案第44号 那覇市教育情報化推進計画について【教育研究所】
- 9 報告6 学校統合に関するアンケート集計結果の報告について【総務課】

出席職員

【生涯学習部】伊良皆宜俣部長、屋比久猛義副部長

（総務課）山内健課長、佐久川敏明副参事、平良尚子副参事、座波園美副参事、伊禮道子主査

【学校教育部】田端一正部長、森田浩次副部長

（学校教育課）相澤敬二課長、山下恒副参事、村吉博勝管理主事、棚原咲子主事

（教育研究所）黒木義成所長、中田光信副参事、玉村かおり指導主事、神谷貴子指導主事、屋富祖禎志主査

（那覇小学校）兼浜みどり校長

会議録作成（総務課）赤嶺明日香主査

神村委員長 平成27年度第22回教育委員会会議定例会を開催いたします。本日の会議録署名は添石委員にお願いいたします。日程1～7までは人事案件であるため、非公開とすることが適当であると思われま。会議の非公開の可否について採決します。日程1～7までを非公開としてよろしいでしょうか。

全 員 異議なし

神村委員長 では日程1～7までは非公開といたします。関係者以外は退席をお願いいたします。

～ 非公開 ～

神村委員長 ここで非公開を解きます。次の日程8と9、那覇小学校のアンケートの内容がいちばん最後でしたが、それを前にして、教育研究所の案件を最後にしたいとのことですので、よろしくお願ひします。では報告6「学校統合に関するアンケート集計結果の報告について」の説明をお願いいたします。

伊良皆部長 報告6「学校統合に関するアンケート集計結果の報告について」、学校統合に関するアンケート集計結果について別紙のとおり報告する。平成28年3月2日提出、教育長 渡慶次克彦。報告理由、統合新校の那覇市立那覇小学校において、学校統合に関するアンケート調査を実施したので、その集計結果を報告する。中身につきましては総務課のほうからご説明いたします。

神村委員長 説明をお願いします。

山内課長 ご説明します、1ページをご覧ください。私のほうから調査の概要を簡単に説明いたしまして、内容につきましては副参事の佐久川が説明して、そして今日は那覇小学校の校長先生もいらしておられますので、現状や補足説明を校長先生にお願ひしたいと思います。調査の概要をご覧ください。目的は統合新校である那覇市立那覇小学校において、学校統合に伴う児童の様子や学校の様子について調査を行い、学校統合について検証を行うということで実施いたしました。対象は小学校の2年生～6年生の児童そして保護者、教職員を対象に行っております。実施期間は平成27年3月2日～3月13日ということで、丁度約1年前、統合新校がスタートして1年経って、卒業式、修了式とかの学校行事を除いて、全部の学校行事が終わった段階でということでアンケートを実施しました。アンケートの数ですけれども、児童が366名中324名の回収です。保護者が366名中240名、教職員は14名中14名の回収となっております。内容については佐久川のほうから説明していきます。

神村委員長 はい、お願いします。

佐久川副参事 説明いたします。次の2ページになります。これは児童へのアンケート結果で、この表とグラフの見方ですけれども、最初に全体の数字と%が学年ごとにありまして次にそれをグラフ化したものが続いています。更にその下のほうが、学校別

という形の分析で掲載しております。以下コメントがある場合は、その下にコメント欄があるという形になります。設問はかなりありますけれども、大まかにこちらで内容等をいくつかピックアップして説明させていただきます。まず2ページ、問1ですけれども「那覇小学校に慣れましたか」という設問ですけれども、「慣れた」を選択した児童が全体の9割を超えている。これは表でいうと右側の回答人数のところでも94.7%で9割を超えているという形になります。学年別にしたのがこの下のグラフですね。それとその下のほう、これが出身校別になりますけれども、出身校別で見ても9割以上の子ども達が「慣れた」を選択している結果になっております。次に3ページ目、問2「那覇小学校になることが心配でしたか」という質問です。これは「心配はなかった」を選択した児童が全体の8割近く、表でいうと回答人数のところ78.9%、約8割が「心配ではなかった」という選択をしております。「心配だった」を選択した児童は、学校別に見ていただくとわかりますけれども、前島小学校出身で17.6%、久茂地小学校出身が約28%になっているということがあります。それと少し下のほうにコメント欄がありますけれども、心配の内容という意見が「友達ができるか心配だった」というのが32名で多いです。その次に「久茂地と前島で喧嘩が起きないか」というそういった心配もあったということでもあります。続きまして4ページ目、問3「那覇小学校になって人数が増えましたが、そのことについてどのように思いますか」という設問です。それに対して「人数が増えてよかった」を選択したのが90.6%、約9割が選択しています。学校別でいきますと、前島小学校が約92%、人数が増えて良かったという話になりますけれども、久茂地小学校出身は約88%になると、一応は比較的人数が増えて良かったという数字に表れています。少し設問を飛びまして、7ページの「今の那覇小学校についてどう思いますか」の設問の間6-1「授業の様子について」、これは上位回答として右側をご覧になっていただければわかると思いますけれども、「授業が楽しくなった」が59.9%、「いろいろな意見が出るようになった」が41.9%、「さわがしくなった」が36.6%というふうになっております。ほかにも設問がありますけれども、児童の部分はこの辺で終わりたいと思います。続きまして12ページ、保護者のほうになります。問1「お子様は、那覇小学校に慣れましたか」という回答設問がありますけれども、「慣れた」「だいぶ慣れた」を合わせますと合計が98%を超えているという状況になります。児童が感じている「慣れた」の94%のアンケートよりかなり上回っている数字になるかと思えます。それと次の13ページの間2ですけれども、「統合する前に心配なことはありましたか」という設問を保護者の方にしてあります。これは全体としては「心配なことがあった」というのが40.5%、「心配なことがなかった」というのが58.2%という結果に

なっております。あと、学校別のところで「心配なことがなかった」が前島小学校出身では約75%あるのに対して、逆に久茂地小学校出身のほうは「心配なことがあった」が約73%となっています。これは新設校の場所の違いが出たものと考えられるのではないかと思います。前島、久茂地小学校とも心配な理由の中で、友人関係の問題を多数挙げているという結果が出ています。久茂地小学校に関しては通学路の心配が多数占めていたということがあります。それと少し飛ばしまして問8のほうにいきます。19ページですけれども「総合的に見て統合はどうでしたか」という設問です。これは全体で「良かった」というのが48.1%、「良くなかった」というのが3.8%、「どちらともいえない」というのが42.2%という結果になっています。それを少し学校別に見てみますと「良かった」が前島小学校出身で57.1%、久茂地小学校出身は35.9%で約36%というふうになっています。逆に「良くなかった」は前島小学校出身が2.7%の4人、久茂地小学校出身が6.4%の5人です。これも理由等のコメントがあります。いくつか例を挙げますと、例えば前島、久茂地両方の保護者になりますけれども「友達が増え前より活発になった」とか「仲間も増え学校に活気が感じられること」「校舎や施設などの充実」というふうなものが挙げられております。あと、こちらのほうは少し説明を省かせていただきますけれども、20ページは自由意見ということでかなりいろんな意見があります。この資料等は事前に送らせていただいておりますので、委員も熟読されたかと思えますけれども、素直な自由意見が書かれているのかなというふうな感じがいたします。その次22ページからは教職員のアンケートでございますけれども、これは参考程度に後ほどご覧になっていただければと思います。戻りますけれども、2ページの間1の「那覇小学校に慣れましたか」という設問の中で、「慣れてない」という方が17名いらっしゃいます、5.3%。この17名に関して「慣れてない」という部分の分析をしなくてはいけないのかなというのがございまして、それはまた別途でご説明したと思います。その前にA4とB4の横綴りの資料があると思いますが、最初のA4のほうは参考程度でご覧になっていただきたいと思います。統合をしている他府県他市の中で「慣れた」「慣れてない」の同様な意見がどんなふうに分析がされているか、という形で比較になります。黄色いところが比較できる数字の欄とお考えいただければと思います。例えば問1に関して、那覇小学校に「慣れましたか」と同様な設問をしているいくつかの市の中で、設問の項目が若干違いますので、例えば練馬区ですと「慣れた」「少し慣れた」というような表現もありますので、それを含めると練馬区の場合98.1%が「慣れた」に入る、そういった見方をしていただければいいかと思えます。この結果からも、そんなにほかの所と差はないんだなと思えますけれども、ただ、若干他市と比較した場合に、

問3の「那覇小学校になって人数が増えましたが、そのことについてどのように思いますか」という中で、那覇市の場合は人数が増えて良かったというのが90.6%、練馬区をはじめ、他市に比べると50%台、60%台という中で、人数が増えて良かったというのが那覇市の90.6%というのは比較的ちょっと気になるというか、突出する結果かなということがいえると思います。次のB4の横の資料ですが、先ほども少し触れましたけれども、慣れない子ども達が17名いらっしやるという中で、17名はどのようにそのあとの質問に対して回答しているか、ちょっと後追いした流れになっています。ここまでは番号が15となっていますけれども、17名おりましたけれども、お二人は複数の1枚の物にまとめられて書いておりますが、誰がどのように回答したかという部分が、後追いでできない部分があったので、その2名分は除外させていただきました。15名の中で後追いさせていただきましたけれども、①～⑧までは前島小学校の出身者であります。⑨～⑮が久茂地小学校の出身であります。この表の見方ですけれども、この1という数字には特に人数とか意味もありません。ひとつのプロットということで、ここに該当しますという認識をお願いいたします。その中で少し説明をさせていただきますのは「慣れてない」中で、例えば白抜きの所はそのあとの回答で少し前向きな、設問には良いことがあったと、例えば①番で言いますと慣れてないという話がある中で、問2では那覇小学校になることは心配なかった、更に人数が増えて良かったという所にチェックしているとか、設問の中でのいい部分もあるのかなということが見えるところです。実は黄色い色塗りした所、3名の所がありますけれども、⑦番・⑧番・⑬番ですね。この部分は比較的後半の問いにも少し状況が厳しいのかなというようなものが見える所をちょっと色塗りさせていただきました。例えば⑧でいきますと、この方は慣れてないというふうなことがありますけれども、例えばコメントの欄がありますけれども、何が心配だったかと言う答えの中で「嫌なやつが増える」とか、そのあとの問いには遊具が減った、問9で前の先生が何人かいなくなってしまうようになったとか、そのあとのアンケートでも少し気になる所があるというふうに、⑦・⑧・⑬というところで少し表記させていただきました。これは丁度1年前に取ったアンケートであります。そのあと、実際はどういうふうになっているかというのは、アンケート結果では見えませんので、先ほど、総務課長からお話がありましたけれども、現在の学校の状況については補足説明ということで那覇小学校の校長先生のほうで説明させていただきます。引き続きよろしいでしょうか。

神村委員長
兼浜校長

はい、よろしく申し上げます。

アンケートの集計結果を受けまして、総務課さんのほうでは肯定的な部分を拾い上げてくださって、とても気恥ずかしくもあるんですが、私どもは否定的な言葉

をあえて取り上げてみて、それを今後の学校経営に活かしていかなくてはならないということで、それをまとめたものがこの綴りのほうです。私の作ったプリント1枚目の問2の下のほうの「*心配な意見」、例えば子ども達から、久茂地と前島で喧嘩が起きないか心配だという声があったわけなんです、これまでに喧嘩をしたということは聞いたことがないんですよ。それで例えば近くの緑ヶ丘公園によく子ども達を見に行くんですが、本当にいっぱい子ども達が仲よく楽しそうに遊んでいますし、運動場でも昼休みでもいっぱい遊んでいますし、これは大丈夫かなという感じで拾い上げてみました。その他に、例えばこの私の作った3ページの問9の一番下のほうですね、「統合についてご意見などがございましたら自由にお書きください」という所でもちょっと否定的なご意見等だけを挙げてみました。例えば「運動場の狭さを課題にしている意見がある」、これは1校で使っていた運動場に2校分の子ども達が入ってきたわけですから子ども達が狭く感じるのは当然かなというふうに受け取っています。ただ、人数が増えた分は、私達は安全に気を付けて子ども達を遊ばせないといけない、運動をさせないといけないということは肝に銘じて考えております。「子ども達の気持ちを確認して教育等に反映したいと思いませんか」、これはあまり良くわらなかったのがクエスチョンマークですが、黒丸の5番目の「本当の那覇小になるには2、3年かかるのでは」という言葉があったんですが、私もこれは同感だなと思いました。直ぐにすっかり那覇小になることはできないだろうということもありましたので、今年が2年目を終わるんですけども、本当の那覇小になりつつあります。保護者も職員も子ども達も本当に那覇小になりつつあるのでこれはとても嬉しい傾向かなと。次の黒丸で「転校、引きこもりになった子がいる」という言葉があったんですが、転校は統合による理由ではない部分があるんですよ。これはちょっと違うんじゃないかと。引きこもりという言葉があったんですが、引きこもりもない。ただ不登校を意味するとしたら統合によるものではありません。不登校の子がいますので、そのことを指しているのかなという感じで、否定的な意見に対して自分達はこう改善していこうという気持ちでこの資料は作成しておりますので参考までにご覧ください。アンケートを集計していただいたのと同時に、アンケートは先ほど説明がございましたように去年の2月の末頃だったんですかね実施は、私達は平成27年度の学校評価のアンケートを取ってみました。これを取ったのは去年の12月です。この円グラフがあるほうです。青い円グラフを載せています。これは12月ですので大体2年目が終わろうとしている時期のアンケートなんです。これらをご覧になられておわかりだと思いますが、そんなに否定的な評定はなかったように思われます。子ども達の日常を見ていまして、あの子は前島だから、この子は久茂地だからとかそういうのは一切一言も聞いたこ

とがないんですよ。とつても仲よくやっていますし、今まで学年が変わっても学級編制がなかった子ども達に学級編制が生まれ、とつても楽しいそうにやっている様子を見て、子ども達の心の中にはそういう大きな課題は残ってないかなと感じています。保護者のほうも1年目の6月頃でしたか7月だったか、PTA組織がキチンと結成されまして、とつてもいい感じでPTAも動いていますので、何か大きな課題があるかというところもありません。また親父の会も結成されて非常に協力的なPTA組織となっております。更に地域の方々が非常に協力的で大きな行事にはいっぱい協力していただきますし、朝の立哨そして毎週水曜日の巡回パトロール、放課後のパトロール等も自主的にやっただきますし、地域の方もとつても協力的で有難く思っています。以上です。

神村委員長　お疲れ様でした。ではこれに関して、ご質問、ご意見をお願いしたいと思います。はい、饒波委員。

饒波委員　今の校長先生のお話で、この1年目のアンケートではPTAの問題で前島小と久茂小が分かれているとか、久茂地小のPTAのほうが主導的でいろんな意見があったりして、大人は大変だなというふうに思ったりしたんですけどね、子どもよりも大人の問題ではないかなと思ったんですけど、今のお話を聞くとそのあと1年経って少しずつ混ざって来たということの理解でよろしいですか。

兼浜校長　PTAが主体となった子ども達を喜ばせるような行事をいっぱい組んでもらって本当にPTAが一緒になってやっていますので、何も問題はないと私は感じています。

饒波委員　追加でもうひとつ、学校が大きくなったことによって先生方の意見にもあったんですけど、子どもとの触れあう機会がなくなったとか、あとは運動場が小さく感じるとか、人が多すぎて嫌だとか、そういう子どもの意見もありますよね。そういう意見があるんですけども、この合併に関しては、私の理解している範囲内では、学校の子どもの人数はどの位が適正かということのを那覇市がずっと計画して、それでその上で合併したという、那覇市が提供できる学校はこういうものですよということで合併したと思うので、そういう人数による不利な点というのは、その前にいた学校が少なくて手厚くて良かったかもしれないけど、これが普通なんだという認識を崩すべきではないと思うんですよ。要するに手厚いほうが良いといって前の所に戻るような施策、やり方をしたりすると、結局、何のために合併したのかわからなくなっちゃうので。多分、ほかの学校はもうそれ位の人数でやっているの、そこになるだけ合うように、合いなさいというわけじゃなくて、合うようにやっで行くということが大切のかなと。手厚い人間関係に戻るということを目指すとまた違った方向になっちゃうので、ここに何とか慣れるような方向で行ったほうが、やっただきたいと切に願います。

兼浜校長 わかりました。ありがとうございます。

神村委員長 ほかにございませんか。はい、どうぞ。

本仲委員 このアンケート調査の集計の結果については、教育委員会としては今後どういう機会にどのような活用を考えているのか、ちょっとお伺いしたいと思います。

山内課長 この調査は統合して1年経ったあと、現状はどうか、何か不適當な所があればどのような対応すればいいのか、心配の子がもしいるのであればどのようなケアをしていくかというようなことでの調査でございますので、広く公表するということについては今のところは考えておりません。

神村委員長 ほかにございますか。はい、本仲委員。

本仲委員 兼浜校長先生、大変ご苦勞様でした、ありがとうございます。私も校長をしていて、こういうふうな減多にある機会でもないですし経験できませんですし、統合したあと、2年前の田端部長から引き継いで大変プレッシャーがあったと思うんですけども、子ども達のこととか教職員の凝集性を高めたり、地域の協力体制を整えたり、保護者に対することも大変ご苦勞があったと思います。大変ありがとうございます。統合という経験は、そんなに経験できるもんじゃないですよ。感想をちょっとお伺いしたいのですが。

神村委員長 では、お願いします。

兼浜校長 そうですね。最初にお話を受けた時に「えっ」という感じで、できるのかしらと、まずこれからだったんですよ、正直言って。いろんなご意見が背景にはある、課題もいっぱいあることでしたので、私にできるかしらという気持ちだったんですが、いちばん嬉しかったのは職員のチームワークなんです。うちの学校ほどチームワークの良い学校はないんじゃないかなと思うくらい、とつてもチームワークが良いんですよ。私がこうして行こうと言ったらそうしようという形でみんなが動いてくれるんですよ。だからそういうふうを支えられてきたこの2ヶ年だったんですけども、今になって思えば、とつても良い経験だったかなと思います。長い教師人生の中で生活の中で1回できるかどうかの経験でしたのでとつても良い経験だったかなと思っはいます。

本仲委員 ありがとうございます。

神村委員長 ほかに、渡慶次教育長。

渡慶次教育長 20ページの保護者の自由意見、それぞれ前島小・久茂地小の保護者だった人達の意見なんですけれども、これは自由意見ですからネガティブなあるいは良い意見もあつたりするんですけど、これはやっぱり自由意見ですからね、それは素直に受け止めてやっていただければと。例えば真ん中あたりの前島の方でしょうね、「一方的に久茂地側父母が進めているように思う」、PTA活動ね。こういった書き方ね、これを良い方向に考えれば久茂地側の保護者が積極的に取り組んで活

発に活動していると、非常にこれ良いんじゃないかなと。ですからいろんな書き方があるんですけど、やっぱり良いように考えるところも必要でしょうし、それとやっぱり悪いところも真摯に受け止めると。今後は統合という名はどんどん後ろのほうに遠ざかっていくんですけど、新しい学校として前に向かって進むには学校がどういうことなのかという事に進んでいっていったら、普通の学校になるんじゃないかな。19ページのそのグラフを見ても、統合して良かったかどうか、確かに前島小学校の場合は「良かった」が多いんですけど、久茂地小学校は「どちらともいえない」。これをまた良い方向に考えると統合は統合で普通だったと、良くなかったとはいってないと、普通の学校になっているというふうを受け止めれば非常に良いかなと。前に進むという感じからすると頑張っていかなきゃなという感じがします。

神村委員長

ほかにございますか。はい、添石委員どうぞ。

添石委員

アンケートに関してということなので確認したいんですが、19ページの間8「総合的にみて統合してどうでしたか」の学年別のグラフを見て、先ほど、校長先生からの時間が経って子ども達も良い状況で進んでいますよということで少し安心はしたんですけど、このアンケートの時点でこの間8を見ても4年生が、この質問でも「良かった」がかなり顕著に低いし、ほかのアンケートを見てもちょっと4年生があまり良くない数字が凄く目立ったんですけど、この時点で何か理由があったのかその辺、何か分析ができてれば。

神村委員長

はい、どうぞ。

佐久川副参事

アンケート集計する中で今、添石委員がおっしゃるように、こちらも4年生が特にいろんな面で数字的なものが少し他学年と比べて違うのかなというのが見受けられたんです。ただ、細かいその状況というのは確かにわからないんですね。ただ、これはあくまでも推測の域を脱しないんですけども、他の学校との比較がありませんので、4年生という学年が精神的に感情的なバランスの成長期の中での多感な時期なのかなと。2年生、3年生というのは学校に慣れるのに精一杯、5、6年生は感情のコントロールが少しできる時期なのかなという部分で、事務局は専門ではありませんので、集計している側ではそういうふうに感じました。それが事実かどうかというのは検証できませんので、これはまた学校現場の校長先生がどう感じておられるのかという少しお聞きしたいと思います。

神村委員長

兼浜校長、お願いしてよろしいですか。

兼浜校長

私のアンケート集計についての1ページの間1をご覧ください。私も間1で「那覇小学校に慣れましたか」、2年生と4年生が「慣れてない」と答えた児童が多いが現3年生と現5年生です。今見ている子ども達です。そしてもうひとつ、間3で「那覇小学校になって人数が増えましたが、そのことについてどのように思

いますか」、問1で「慣れてない」と回答した児童が多い2年生と4年生が問3で「増えないほうがよかった」と否定的に答えている訳なんですよ。ふとこうして考えてみたんですが、今の現3年生と現5年生はとっても元気があるってそこまで元気があるかと思うぐらい元気のある子ども達なんです。だからそのように特に現5年生などは何故こう答えたんだろうと思うぐらい元気で、活発でじゃれつくし、そんな天真爛漫な子ども達ですので、そういう子ども達だからこそちょっとシャイな部分があったのかなとか思ったり、この子達がこんなふうに答えるのと思ったり、ちょっと自分でもよくわからない部分ではありました。

本仲委員

先ほどの回答で一部同調するところはですね、発達心理的に4年生というのはギャングエイジと言われているんです。だから今、答えたようなところでそういうようなものがあるのかなと、5、6年生になると割と落ち着いてきて今度また第二反抗期に入ってきますけれどもね。そういうような発達のこの段階があるということがひとつ背景にないのかなと。

神村委員長

はい、どうぞ。

渡慶次教育長

アンケートを取る時期とかね、この瞬間、例えばアンケートを書く直前に誰かと喧嘩をしたとか、そういう喧嘩をして苛ついている時にこのアンケートを書くともう増えないほうがいいと、アンケートの難しさとはその取るタイミングとかね、時期とかね、それによって微妙に変わってくるのかなという感じもするんですよ。ですからこの辺のことも推察すると確実にこれが訴えているかということに捉えきれない難しさというのがアンケートにあるのかなと。

神村委員長

兼浜校長先生がおっしゃっていた元気がありすぎるということは、リーダーシップを取りたい人が一杯いるということの裏返しではありませんか。ですからあまりたくさんよりは少ないほうがリーダーシップは取りやすいので、そういうことを考えても不思議ではないのかなと、子ども達の気持ちの中で、元気があるということは良いことですよ。ほかにございますか。はい、添石委員。

添石委員

今の質問はおそらくこのアンケートがいろんな所で活用される場面があると思うので、私もこの発達段階によるものも影響しているのかなと思ったので、是非、今の話も良いかなと思いました。そして最後のこのアンケートそのものなんですけれど、やっぱり教育委員会としても今回の件はその適正規模というのを那覇市としてどう考えるかということで話が進んで、いろんな声といろんな評価があったかも知れませんが、やっぱりそこが教育委員会としての私達の立場なのかなということで関わって来たつもりなんで、今後もアンケートの検証も含めてこの規模をしっかりと維持するために統合を行ったということを是非続けてほしいなということがひとつと、あと、そもそもは時代の背景の流れで子ども達の人口の減少であったり、那覇市のそれぞれの地域、学校と地域の関わり方と、どなた

か保護者のコメントもありましたけれども保護者からは那覇市そのものが子育てができるような地域を久茂地が作れなかったんじゃないかみたいな、そういうこともあったと思うんですけれども、その辺の検証というのをこのアンケートからあるいは今回の前島と久茂地の統合のことから、教育委員会だけではなくて、ほかの部局とも引き続き、今後の那覇市の在り方も含めて検討していただきたいと個人的には強く要望したいと思います。以上です。

神村委員長

ほかにありますか。ほかにご意見がありませんので、それでは報告6「学校統合に関するアンケート集計結果の報告について」は、この辺で終了いたします。兼浜校長先生、ご苦労様でした、ありがとうございました。続いては議案第44号「那覇市教育情報化推進計画について」を議題といたします。では田端部長、お願いいたします。

田端部長

議案第44号「那覇市教育情報化推進計画について」、「那覇市教育情報化推進計画」を別紙のとおり決定する。平成28年3月2日提出、教育長 渡慶次克彦。提案理由、「那覇市教育情報化推進計画」を決定するのでこの案を提出する。詳細については教育研究所がご説明申し上げます。

神村委員長

では、所長のほうからでよろしいですか。お願いします。

黒木所長

私のほうからはまず作成の経過を簡単に申し述べまして、そのあと、前回の教育委員会会議のあとの修正箇所につきまして副所長のほうから、そのほか、各部会につきましては、担当のほうが来ておりますので委員の皆様のご質問等にまたお答えしていきたいと考えております。まず作成の経過でございますが平成27年度の6月3日に第1回那覇市ICT教育推進委員会を開催いたしました。その中で方針等を審議いたしまして、そのあと、9月10日、10月20日、11月24日に各統合部会を開催いたしまして作成審議をして参りました。そして今年に入りまして平成28年1月29日に第2回ICT教育推進委員会を開催いたしまして素案の審議をいたしました。そして2月10日に局議で審議をいただき、前回、2月16日に教育委員会会議で協議をしていただいたところです。そして先日、2回目の2月25日に局議を開いていただきましてそこで審議をいただいたと、そして本日という過程になっています。続きまして修正箇所につきまして副所長より説明をいたします。

神村委員長

副所長、お願いいたします。

中田副参事

主な修正箇所について説明いたしたいと思います。2月16日の計画案について教育委員会会議で受けた事や、それから局議のほうでこういうふうにしてほしいという事とかありますので説明していきます。ページに沿ってやりたいと思います。今回は決議ということで目次のほうにページ数を打っております。それと1ページで、前回は県の要請があるから作ったみたいな書き方をしておりましたが、

本来の理由に書き換えております。2ページ～3ページの教育の情報化に係る那覇市のこれまでの取組を読みやすく変更し、2ページの後段部分の本市の取組について中間的なまとめを追加しております。4ページ、前回、教育の情報化に係る那覇市のこれまでの取組ということで最終段落のほうの上段にあった部分を計画の基本的な考え方の(1)計画策定の理念、というふうにして設けて理念として表記しております。6ページ～12ページも教育の情報化の目的というところで、情報化の充実については教育の情報化の目的というのがちょっと曖昧な書き方になっていましたので、教育の質を向上させることを目的としていると端的にまとめております。そこに書かれていた部分について、青い字は結構あっちこっち教育の情報化とか、ICTの活用とか、校務の情報化とか、そういう部分に分散して読みやすくしております。また6ページのほうにキャリア教育関連の追加、それと7ページのほうで情報モラルについて追加しております。情報モラルについては重要なので巻末資料を参照してくれというような書き方しております。あと、内容はほとんど変えずに誤字、脱字等の訂正をしております。読み返してみるとまだ誤字、脱字等がありますので誤字、脱字等につきましてはこの審議で了承していただいたあとに誤字、脱字等を変更して決裁に回していきたいと考えております。以上であります。

神村委員長

では、この件に関しまして、ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。はい、饒波委員。

饒波委員

まず2ページ、3ページが非常に読みやすくなった、主語をつけたので非常に読みやすくなってストーンと落ちました。それでこの計画については今年度中に作成しなくちゃいけないということで、あまり細かい所を言ってもあれなんで、4ページの理念と6ページの目的についてちょっと話をさせていただきたいと思えます。まず理念なんですけども理念の上のほうで4行目の「言語に関する能力育成」というのが意味がわからなくて、この言語というのは日本語のことを言っているのか、それともメディア語のことを言っているのか、文科省の教育情報化の手引きを見るとそれと似たようなものがあって、その原版では日本語のことが明らかなんですけど、この文章の基はおそらく私が認識するに新学習指導要領から大体この様なことが書いてあるのを持ってきたんだと思うんですけど、新学習指導要領は特に情報化のことをいっているのではなくて学力全体のことをいっているんで、そうすると1行目のところが「学力を育成するために」という凄く大きな括りで話が始まっているので、具体案としては、今回は教育の情報化、特にICTの話なんで1行目のいちばん最初なんですけど、これは案なんですけど、「知識基盤型社会において確かな学力を育成するためにICTの基礎的基本的な知識を習得させるために」というふうにすると何かそのまま落ち着いていくのかなと